

## 第5章 空 港



広島空港における新型コロナウイルス感染症対策  
(サーモグラフィーによる検温)

## 1 広島空港の概要

### (1) 広島空港の現状

広島空港は、3,000mの滑走路、9つのスポットを有するエプロンや最新鋭の設備とともに、31,000㎡の旅客ターミナルビル、3,900㎡の貨物ターミナル施設などを備えた中国・四国地方最大の空港である。

また、平成29年10月29日から、空港の運用時間が夜間1時間延長され、15時間（7:30～22:30）となっている。

国内定期路線は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年3月上旬から減便が続いた。GoToキャンペーン等で一時的に利用者が回復傾向にあったものの、11月中旬以降、全国的に新規感染者数が急増し、感染拡大前の水準への回復には時間を要すると想定される。また、国際定期路線は、令和2年3月下旬以降、全路線運休となっており、回復の見通しが立っていない。

今後は、令和3年7月から広島空港の運営を開始する広島国際空港（株）等と連携し、新型コロナウイルス感染症の回復状況を踏まえながら、中国・四国地方の拠点空港として、また、本県の新たな経済成長を支えるグローバルゲートウェイとして、引き続き利便性の向上や利用促進に努める。

### 広島空港の概要

設置管理者	国土交通大臣			
飛行場の種類	空港法第4条第1項第5号に掲げる空港			
供用開始日	平成5年10月29日（3,000m滑走路供用：平成13年1月25日）			
施設	告示年月日	平成12年12月28日（運輸省告示414号）		
	管理面積	1,948,484㎡		
	基本施設 （ターミナル拡張計画を含む。）	着陸帯	長さ	3,120m×幅 300m
		滑走路	長さ	3,000m×幅 60m
		誘導路	総延長	3,290m
エプロン		120,300㎡（サブターミナルを含む。）		
概要	航空灯火	進入灯, 進入角指示灯, 中心線灯, 滑走路灯, 誘導路灯, エプロン照明灯等		
	通信施設	遠隔空港対空通信施設, 飛行場情報放送業務施設		
	航空保安無線施設	ILS（計器着陸装置）, ASR（空港監視レーダー）, SSR（二次監視レーダー）, VOR/DME（超短波全方向無線標識装置/距離測定装置）		
	気象観測施設	滑走路視距離測定器, 風向風速観測装置, 雲高測定器等		
運用時間	15時間（利用時間：7時30分から22時30分まで）			

## (2) 主な施設整備等の状況（国土交通省事業）

時 期	内 容	目 的
平成 20 年 6 月	計器着陸施設の高度化（CAT-Ⅲa）	視界不良による欠航，ダイバート（目的外空港への着陸），遅延等の改善
平成 21 年 7 月	計器着陸施設の高度化（CAT-Ⅲb）	
令和 3 年 4 月以降	滑走路端安全区域（RESA）の整備	航空機がオーバーラン及びアンダーシュートした場合に航空機の損傷を軽減

## (3) アクセスの充実

広島空港へのアクセスとして，広島（広島駅新幹線口・広島バスセンター・平和大通り），呉，三原，福山，西条からの空港アクセスバス，JR白市駅からの空港連絡バス，竹原，尾道からの乗合タクシーが，それぞれ運行されている。

また，広島空港県営駐車場においては，平成 28 年 7 月からカーシェアリング（ラウンドトリップ方式）の社会実験を実施し，平成 29 年 4 月から本格導入するとともに，平成 29 年 5 月からは同駐車場と県内 17 拠点の間でワンウェイ方式（乗り捨て）のカーシェアリングを導入している。（県営駐車場は令和 3 年 4 月から空港運営権者の管理となり，今後，レンタカーステーションの新設も提案されている。）

なお，JR広島駅から広島空港間の定時性向上につなげるため，平成 29 年度から，JR白市駅・空港間の主要地方道東広島本郷忠海線に凍結防止剤散布装置等の設置を進め，平成 30 年度に完了した。

さらに，JR白市駅においては，利便性向上のため，バリアフリー化工事（跨線橋の架替，エレベーター設置等）を実施し，平成 28 年 3 月に工事が完了した。

## (4) 航空ネットワークの維持・拡充

新型コロナウイルス感染症の収束時期を想定し，広島国際空港㈱や官民で構成される広島県空港振興協議会等と連携し，既存路線の早期復便に備え，需要回復に取り組む。

なお，国際線の復便にあたっては，不可欠となる水際対策の強化に向け，広島国際空港㈱や地元関係機関と連携し，ビル施設の改修等，検疫体制の強化に向けた環境づくりに努めるとともに，検疫の実施主体である国へ，検査人員確保等の必要な働きかけを行っていく。

## (5) 空港の振興

官民一体となって空港の振興策を推進するため，平成 6 年 3 月に設立した広島県空港振興協議会（会長：広島県商工会議所連合会会頭，構成員：県，市町，経済団体等）を中心に，就航路線の利用促進や路線誘致などの活動を展開する。

## (6) 空港経営改革の導入

広島空港が、本県の経済成長を促す役割を担うとともに、中四国地方の拠点空港として今後も継続的に発展していくため、航空系事業と非航空系事業を一体化し戦略的な空港運営を可能とする空港経営改革（一体運営・民間委託）の導入に取り組むこととし、平成29年3月に「広島空港の経営改革に係る県の基本方針」を策定した。

これを受けて国は、平成31年3月から導入手続を本格的に開始し、空港運営権者選定の手続を進め、令和2年12月に広島国際空港（株）と運営権実施契約を締結した。

今後は、県の基本方針が反映された空港運営権者の提案を共有し、令和3年7月からの空港運営事業開始後、実現に向けて連携して取り組む。

## (7) 令和3年度事業の内容

(単位：千円)

区 分	予 算 額	事 業 内 容
直轄空港建設費等負担金	525,667	広島空港の施設更新
空港関連施設等管理費	11,688	周辺県有地の管理等
空港周辺対策事業	39,225	空港周辺の環境対策等
広島空港拠点性強化事業	36,676	国際定期路線の需要拡大等
新規国際定期路線支援事業	26,582	新規路線の立ち上がり支援
空港振興事業	16,600	官民一体による利用促進、新規路線の誘致活動等
合 計	656,438	

参考 広島空港の定期航空路線の概要（令和3年夏ダイヤの運航計画）

(1) 国内線の現況

(令和3年3月31日現在)

地域	路線	航空会社	便数/日	使用機材	令和元年度 旅客数	令和2年度 旅客数	対前 年度 比	備考
北海道	札幌 (新千歳)	全日本空輸	2	B737-800 (166席)	167,840人	32,676人	19.5%	H27.10.25~ (S61.3.1~)
		日本航空		B737-800 (165席)				H8.8.2~
東北	仙台	IBEXエアラインズ (全日本空輸)	2	CRJ700 (70席)	76,585人	44,907人	58.6%	H21.9.21~ (H4.10.25~)
東京	成田	IBEXエアラインズ (全日本空輸)	2	CRJ700 (70席)	249,857人	22,609人	9.0%	H15.8.1~
		春秋航空日本		B737-800 (189席)				H26.8.1~
	東京 (羽田)	全日本空輸	17	B787-8 (335席) B767-300 (270席) B737-800 (166席) A321 (194席)	2,035,207人	574,311人	28.2%	S37.10.14~
日本航空		H2.7.21~ (S63.7.23~)						
沖縄	那覇	全日本空輸	1	B767 (270席)	135,896人	52,941人	39.0%	S61.4.26~
<定期便計>	5路線	4社	日24便		2,665,385人	727,444人	27.3%	
チャーター便					4,140人	3,742人	90.4%	
<国内線合計>					2,669,525人	731,186人	27.4%	

(2) 国際線の現況

(令和3年3月31日現在)

国・地域	路線	航空会社	便数/週	使用機材	令和元年度 旅客数	令和2年度 旅客数	対前 年度 比	備考
韓国	ソウル	エアソウル (アジアナ航空)	運休	A321 (195席)	36,563人	0人	0.0%	H28.10.20~ (H3.6.21~) R2.12.17~運休
中国	大連・北京	中国国際航空 (全日本空輸)	2	B737-800 (157席)	33,827人	0人	0.0%	H10.2.26~
	上海	中国東方航空 (日本航空)	7	A319 (120席)	57,773人	0人	0.0%	H8.2.6~ (H23.7.22~成都延伸) H30.3.25~成都延伸 休止
台湾	台北	チャイナエアライン (日本航空)	7	B737-800 (158席)	84,778人	0人	0.0%	H16.6.2~
香港	香港	香港エクスプレス	4	A320 (180席, 188席)	42,264人	0人	0.0%	H27.10.27~
シンガポール	シンガポール	シルクエアー (シンガポール航空)	運休	B737-800 NG(162席)	34,378人	0人	0.0%	H29.10.30~ R2.3.27~運休
タイ	バンコク	ノックエア	3	B737-800 (189席)	5,160人	0人	0.0%	R元.12.18~
<定期便計>	7路線	7社	週23便		294,743人	0人	0.0%	
チャーター便					9,940人	0人	0.0%	
<国際線合計>					304,683人	0人	0.0%	

## 2 広島ヘリポートの概要

### (1) 広島ヘリポートの管理・運営

平成22年10月30日の定期路線の撤退により、小型機専用飛行場として運営していた広島西飛行場を平成24年11月15日付けで廃止、同日付けで広島ヘリポートとして供用開始し、ヘリコプター運航及び利用者の安全確保に必要なサービスを行っている。

なお、広島西飛行場の範囲でヘリポートを供用開始した後、段階的にヘリポート区域を縮小し、平成27年4月から最終形区域での供用を開始した。また、この最終形区域での供用開始に合わせて、指定管理者制度を導入し、「日本空港コンサルタンツ・大成有楽不動産連合体」が指定管理者として管理運営を行っている。(令和2年4月1日から令和7年3月31日まで[5年間])

また、広島ヘリポート管理事務所の老朽化が進んでいたため、旧広島西飛行場ターミナルビルを取得し、建物の改修及び管理事務所の移転を行い、令和元年9月から新管理事務所での業務を開始した。引き続き旧管理事務所棟の解体工事と外構工事(柵設置等)を行い、令和3年度中に完了予定である。

#### 広島ヘリポートの概要

設置管理者	広島県		
飛行場の種類	陸上ヘリポート(公共用)		
供用開始日	平成24年11月15日		
施設概要	管理面積	112,939 m <sup>2</sup>	
	基本施設	着陸帯	長さ35m, 幅30m
		誘導路	長さ28m, 幅9m
		エプロン	20,574 m <sup>2</sup> , スポット14
航空灯火	飛行場灯台, 誘導路灯, 風向灯, 境界灯, 境界誘導路灯		
通信施設	対空通信施設一式		
気象観測施設	風向風速観測装置等		
運用時間	10時間30分(利用時間: 8時30分から19時00分まで)		

### (2) 令和3年度の事業内容

(単位: 千円)

区分	予算額	事業内容
広島ヘリポート管理費	137,866	ヘリポートの管理・運営等
広島ヘリポート整備事業	20,455	エプロン舗装, 場周柵整備等
計	158,321	